



「第62回卒業式を終えて～校長式辞より」

校長 千秋 久宣

2022年、3月11日(金)第62回卒業証書授与式は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、簡素化を余儀なくされましたが、関係の皆様方のご理解とご協力により、滞りなく終えることができました。本当にありがとうございました。

さて、今年度最後の校長通信は、その卒業式の式辞を抜粋してお知らせしたいと思います。在校生のみなさん、卒業した3年生への思いを胸に、再度、式辞を思い起こしてもらえると幸いです。

・・・・・・・・(前半省略)

さて、私とみなさんが本校でともにした時間は二年間ではありましたが、みなさんには、「本当に一人一人が成長した姿、そして学年としても成長した学年」を感じさせてもらいました。昨年度、今年度と世の中、そして本校も新型コロナウイルスとの闘いでした。そして、この闘いは今も続いています。今年度、本校は「反撃開始、こんな所じゃ止まらない」というスローガンを合い言葉に、前向きな気持ちで進んできました。この学校の推進役として学校を引っ張ってくれたのが、ここにいる九十名の卒業生だと私は思っています。最上級生が良き手本となり、どんな時でも一・二年生に対して「三年生をみてごらん」と言える学校は、これほど頼もしいことはありません。この姿が続く限り高瀬中学校は安泰だと思います。「体育祭」や「合唱コンクール」で見た卒業生の姿は後輩の憧れと目標になったことは誰もが認める所であり、毎日の授業や部活動、そして学校生活や学校行事に取り組む姿勢は、最上級生にふさわしいものだったと私は実感しています。

期待に応えてくれたみなさんへのはなむけの言葉として、一人のスポーツ選手の言葉を紹介します。先日、プロ野球、日本ハムファイターズの監督に就任した「新庄 剛志さん」です。新庄さんについては、野球に詳しくない方でも、その言動から、知っている方も多いと思います。今までのセオリーとは異なる考え方や言動から注目されていることも承知していますが、彼の書籍から私の心に残った言葉を一つ紹介したいと思います。

「夢を叶えるために、諦めずに必死で努力する。夢を叶えたときに『よくがんばったな』と思える人生は楽しいし、価値があると思っている」

新庄さんは、自分のことを次のように理解していると記しています。「自分は運動はできたけれど、特別な才能があったわけではないし、恵まれた素質のあった選手は他にもいた。それでも大リーグで活躍し、日本のプロ野球でも活躍できたのは、『自分の得意なことは何か』『自分が他の人よりも優れていることは何か』を考えに考えて、そこに集中して、人一倍の努力を続けたからだと思う。」新庄さんは、夢が叶えるための決定的な考えをこう述べています。

みなさんにも、目標を見つけ、集中して努力することを大切に、自分に納得のいく夢の実現に繋げてほしいと願っています。・・・・・・・・(以後省略)。

最後に、保護者の皆様、生徒のみなさん、2021年度も残りわずかとなりました。この1年間、本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、心から感謝しております。本当にありがとうございました。今後とも高瀬中学校にご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

